

**優秀賞** 平井 亜加梨

水が流れている。外ではバケツをひっくり返したような雨が降っていて、家の真ん前の道路に美味しくないミルクティーみたいな色をした川ができていた。それを掻き分けながら軽トラが家の前を通り過ぎたとき、外を眺めていた私に、お父さんが「お風呂入るよ」と声をかけた。私は返事をして、窓辺から離れた。

翌朝、昨日見た川は無くなっていて、代わりに砂が入った袋がたくさん並んでいた。近所の人がみんなで辺りの泥を掃除している。当時3歳だった私には、大変そうだということしか分からなかった。

それからしばらくして、道路にダンプカーがたくさん走るようになった。なぜなのかお父さんに聞いてみると、「川の水が溢れんように、川を掘って大きく深くしてるんやで」だそう。ダンプとすれ違いながら小学校に通う日々が続いた。

河川の工事が終わってからもう何年か経つ。2009年8月9日の水害を乗り越えて、佐用町に、千種川に、今日も水が流れている。